医療的ケア児等コーディネーターの活動に関する研究

障害福祉研究部　小田島 朋

医療的ケアが必要な子どもと家族が安心して暮らすための研究についてご紹介します。

医療的ケアが必要なお子さんは、日常生活を送る上で医療の処置や対応を必要としており、人工呼吸器の装着や気管を切開して酸素を取り込むなど、医療機器を使いながら生活をしています。

2019年の時点で2万155人いるとされ、およそ10年で約2倍に増えています。

自宅で生活をするには、主にご家族がケアをされていますが、課題が多くあります。夜もお子さんの容態に応じてケアが必要であるため、家族は日ごろから睡眠不足や体力が低下しています。

また医療的ケア児を預かる施設が全国でも少ないため、働くことが難しい状況です。きょうだいがいても学校行事や習い事まで手がまわらないといった課題もあります。

自宅で生活するには、訪問看護や訪問診療、訪問介護を利用しているかたが多く、地域の医療や福祉、教育など様々な分野の機関や施設が関わっています。

自治体の福祉センターや相談支援事業所などには、お子さんと家族が地域で生活するための調整を担う医療的ケア児等コーディネーターの皆さんがいます。

コーディネーターの皆さんは、障害福祉や医療、行政などの分野で働いている相談支援専門員や社会福祉士のかたが講習を受けて活動していますが、厚生労働省が 2021 年に行った調査では、活動が十分にできていないという結果が出ています。

そのため、コーディネーターのかたに仕事の内容や活動をする上での難しさなど、実際の状況をインタビュー調査し、機関や施設の種別ごとに最適な活動のあり方を検証したいと考えています。